ふるさと見て歩き 第112回

赤いカンナと茨城国体

夏季に美和・緒川地域等で車を走らせると、国道293号などの主要な道路沿いに、地区の方たちの手入れしている花壇を見ることができます。

花壇には黄から橙のマリーゴールド、赤や青のサルビアなど、色とりどりの花が並びますが、その中でも、力強く大きく育った赤いカンナが一際目を引きます。

カンナは、カンナ科カンナ属の植物で、園芸用に多様な品種が開発されている人気の花です。白、ピンク、橙、黄など、様々な色のものが開発されていますが、なぜこの地域の花壇のカンナは赤ばかりなのでしょうか。

▲（右列）背の高い植物がカンナ

市内にお住いの、おおよそ50歳以上の方は、昭和49年に開催された第29回国民体育大会、いわゆる茨城国体をご記憶の方も多いかと思います。

国体こと国民体育大会は、全国の都道府県持ち回りで開催される国内最大のスポーツ大会です。初めて茨城県で開催された茨城国体は、夏季大会を昭和49年9月8日～11日、秋季大会を10月20日～25日に、30競技を27市町村の会場で、2万人を超える参加者を集めて盛大に催されました。

これに合わせて笠松運動公園が整備され、国道6号が笠松まで4車線化されるなど、茨城国体は県民生活にも大きな影響を与えた、茨城の戦後史に残る一大イベントでした。

「水と緑のまごころ国体」をテーマに掲げた茨城国体は、大会のテーマカラーとして、まごころの「赤」、豊かな実りの「黄」、豊かな水の「青」の三色を選定し、シンボルマークやその他大会関係の各所にこの色を用いました。

また、当時の茨城県内では、県内外からの参加者をもてなすため、花いっぱい運動が盛んに行われました。

特に赤いカンナは、まごころの「赤」を表す花として、炬火（きょか）リレー（※各地で採火後、開会式会場まで火をリレーする、オリンピックでいう聖火リレーのようなもの）の沿道をはじめとして、競技会場とならなかった市町村でも一斉に植えられ、大会の盛り上げに一役買いました。

会場地	競技	競技日程 10月20日	21日	22日	23日	24日	25日	会場
那珂町（笠松）	開会式							茨城県笠松運動公園陸上競技場
	閉会式							茨城県笠松運動公園陸上競技場
水戸市	陸上競技							茨城県笠松運動公園陸上競技場
	体操							水戸市吉沢公園市民体育館
	ラグビーフットボール（高校男子）							茨城県県央運動公園陸上競技場 茨城県県央運動公園自由広場
	高等学校野球（硬式）							茨城県県央運動公園野球場 常陸銀行平磯グラウンド
日立市	バスケットボール							日立製作所日立体育館
	柔道							茨城県立日立高等学校体育館
	剣道							日立製作所国分鉄道場 日立市民運動公園剣道場
	軟式野球（一般軟式）							日立市運動公園野球場 日立製作所亀戸工場野球場
古河市	バレーボール							古河市立体育館
下館市	弓道							下館市立下館中学校体育館
常陸太田市	ボクシング							常陸太田市太田中学校体育館
勝田市	ソフトボール							日立製作所勝田工場石川グランド 勝田市長崎グランド
	ラグビーフットボール（一般 教員）							勝田市六ツ野公園
笠間市	レスリング							笠間市民体育館
東海村	ホッケー							東海村阿漕ヶ浦運動公園
那珂町	軟式野球							茨城県立笠松運動公園硬球場

いよいよ本番

国体秋季大会

『水の祭典』茨城国体秋季大会は、九月八日から十一日までの四日間にわたり水戸市民プール、潮来漕艇場、霞ケ浦ヨットハーバーで全国四十七都道府県の代表三千六百余人が参加し連日熱戦がくりひろげられました。

本県勢は、水泳が千葉県の進勝をはばみ、初の総合優勝を飾ったほか、ヨット、ボートでも健闘し、大体満足のいくものでした。

そして今、国民体育大会でも一番はなやかといわれている秋季大会が間近かにせまりました。

秋季大会は、夏季大会より二十八日後に開かれるもので暑下二十六市町村で二十六競技の熱戦がくり広げられます。

みなさんも五十年に一度のこの茨城国体を是非観覧し、大会に出場される選手たちに温かい応援と拍手を送りましょう。

各競技は大部分無料で公開されますが陸上競技、体操及び高校硬式野球の入場券は、水戸市国体実行委員会（市役所内）、バレーボールの入場券は古河市国体実行委員会（市役所内）から発売されますのでお問い合わせのうえ御入手下さい。

なお競技会入場券は当日売（二百円）もしていますが混雑が予想されますので前売券（百六十円）をお買い求めて下さい。

★緒川村から茨城国体に参加します。

○野試合（スポーツ少年団）25名
○あやめおどり（婦人会）5名
○国体音頭（婦人会）45名
○ラグビー審判（小瀬高OB）3名

国体にそなえて

花いっぱい運動に成果

村では従来より「花いっぱい」運動を展開していますが、本年度は茨城国体の開催に向けて一層の推進をはかってきました。

婦人会、老人クラブをはじめ都落の方々の積極的な御協力により村内の道々いたるところきれいな草花を見ることができます。

花を愛し、みんなで協力して育てることによって自然を愛する心につながり郷土愛にもつながっていくものです。「われひとりよければ…」という今の世の中にあって協力する心、公共心を強めて美しい環境、明るい村づくりに努めたいものです。

去る九月十八日、「花とほうきの環境美化コンクール」の審査のため県より社会教育課長ほかたくさんの審査員が来村され、地域の皆さんの努力された成果に賞嘆しておられました。その結果は後日発表されることになっています。

きたる十月十六日、十七日には元気あふれる小学生、中学生、高校生等による待望の旗・炬火リレー走者が秋の陽をいっぱいに浴びて色とりどりに咲きほこる道々の花を眺めながら力強くかけぬけて行くことでしょう。

▲ 花いっぱい運動の様子を伝える
『広報おがわ第61号』（昭和49年10月1日発行）

あれから40年以上が経ちました。

現在、美和・緒川地域等で見られる赤いカンナは、その時に植えられたカンナの子孫にあたります。

カンナは宿根草なのですが、熱帯地方である中南米原産であるため、暑さには強いですが寒さには弱く、冬季の寒さが厳しいこの地域では、球根を地中に残したままでは良くありません。このため、カンナを育てている地区では、毎年冬季には球根を掘り上げて屋内等で大切に保存し、翌春に改めて植え付けるという手間をかけて、代を重ねてきました。

茨城県内で、当時の花の子孫がこれほどまとまって残されている地域は、他に例がありません。

平成31年、茨城県で再び国体が開催されます。国体が全国の開催地を一巡して戻ってくるまで、まごころの「赤」であるカンナを40年以上繋いできた地区の方たちの努力には、頭が下がります。

今年の夏もまた、満開の花が私たちを楽しませてくれることでしょう。

■問い合わせ■

文化スポーツ課　文化・スポーツG　☎52-1111（内線342）